

27年新課程入試

# 東京大が 27 年新課程 入試科目(予告)を発表！

注目のセンター試験「理科」は、文科各類[前]…基礎科目、理科各類[前]…発展科目、後期…基礎・発展科目から、それぞれ 2 科目！

旺文社 教育情報センター 23 年 11 月

東京大はこのほど、27 年の入試科目を発表した。24 年度高校入学者から、数学・理科は新学習指導要領に移行され、入試での実施は 27 年が初年度となる。特に現行課程と比べ、大きく再編・改訂される理科の入試科目が注目される。

※本資料では、理科の新課程各科目について便宜上、次のように表記する。

- ・基礎を付した科目（「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」）…基礎科目
  - ・基礎を付していない科目（「物理」「化学」「生物」「地学」）……………発展科目
- なお履修上、基礎科目は 2 単位、発展科目は 4 単位に相当する。

## ●東京大の入試科目を見る前に ～新課程センター試験「理科」選択方法 4 パターン～

27 年のセンター試験から、理科は上記の基礎 4 科目・発展 4 科目が出題科目となる。非常に特徴的なのは、大学入試センターから各大学の入試科目の選択方法について、次の 4 パターンが提示されていることだ。

【選択方法 A】：基礎 4 科目から 2 または 1 科目を選択解答。

(2 科目選択＝4 単位相当／1 科目選択＝2 単位相当)

【選択方法 B】：発展 4 科目から 1 科目を選択解答。

(1 科目選択＝4 単位相当)

【選択方法 C】：基礎 4 科目から 2 または 1 科目、並びに発展 4 科目から 1 科目を選択解答。(3 科目選択＝8 単位相当／2 科目選択＝6 単位相当)

【選択方法 D】：発展 4 科目から 2 科目を選択解答。

(2 科目選択＝8 単位相当)

この 4 パターンを前提としながら、以下に東京大の入試科目を見ていこう。

※新課程センター試験（理科・数学）の概要は、下記の弊社記事を参照されたい。

『新課程センター試験：数学は 4 科目、理科は物理／化学／生物／地学の「基礎科目」「発展科目」の 8 科目出題！』（23 年 4 月 6 日掲載）

<http://eic.obunsha.co.jp/resource/topics/1104/0401.pdf>

## 1. センター試験 <理科>

- ①【前期】文科各類型…「基礎科目から2」がベース（発展科目を含めた選択も可能）  
⇒ **選択方法 A**
- ②【前期】理科各類型…「発展科目から2」⇒ **選択方法 D**
- ③【後期】全科類（理Ⅲ除く）…「基礎科目・発展科目から2」⇒ **選択方法 A・D**

### ①【前期】文科各類型…「基礎科目から2」がベース（発展科目を含めた選択も可能）

「物理基礎」(「物理」)  
「化学基礎」(「化学」)  
「生物基礎」(「生物」)  
「地学基礎」(「地学」)

基礎 4 科目から 2 科目を選択解答

※基礎科目を2科目選択せずに、発展科目を選択している場合も基礎科目とみなす。

（「基礎1科目、発展1科目」や「発展2科目」でも可）

※ただし発展科目は、同一名称の基礎科目を選択していない場合に限る。

（例えば「物理」は「物理基礎」を選択している場合は不可）

※基礎科目を2科目選択している場合は、その科目で判定する。

（「基礎2科目、発展1科目」の場合は必然的に「基礎2科目」で判定）

※発展科目を基礎科目として判定する場合は、得点は基礎科目に換算される。

（基礎・発展科目の配点は、大学入試センターから今後発表）

前述の選択方法 A～D のうち、各国立大の文系学部は、A もしくは B になろうかと予想される。

今回、東京大の文科各類型が、基礎 2 科目の「選択方法 A」としたのは、リベラル・アーツ（幅広い教養）を重んじる教育理念を入試に反映させたものと見られる。もちろん、理科の幅広い領域での学習を求める新学習指導要領に則ったことであろう（選択必修は①「科学と人間生活」と基礎 4 科目のうち、「科学と人間生活」を含む 2 科目、もしくは②基礎 4 科目のうち 3 科目、のいずれか）。

東京大の文科各類型ではさらに、発展科目の選択も認めている。これは、大学入試センターおよび国大協入試委員会から各大学に対して、基礎科目を指定する場合、発展科目の受験者にも受験資格を付与するよう、配慮を求めていることが背景にあるとみられる。こうして基礎科目をベースとしつつ発展科目も認めたことにより、東京大の「予告」では、カッコ書きの“(「物理」)”といった特徴的な表記がとられたようだ。

なお、得点が「換算」となっているのは、発展科目は基礎科目の 2 倍の配点になることが想定されているためだ。

## ②【前期】理科各類型…発展科目から2

「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	発展4科目から2科目を選択解答
------------------------------	-----------------

前述の選択方法 A～D のうち、各国立大の理系学部は、C もしくは D になるかと予想される。特に3領域からの学習を求める（基礎2科目・発展1科目の場合）「選択方法 C」は、難関大や一部の教員養成系（理科専攻）、医学部医学科で出てくるだろう。

そうした中、東京大の理科各類型は理Ⅲも含め「選択方法 D」となった。後述の個別試験でも同様に、2領域の選択解答となる。

なお、センター試験出題科目の履修上の単位数は、現行の「各I科目（「物理I」など）から2科目＝6単位相当」から「各発展科目から2科目＝8単位相当」へ2単位増となる。

## ③【後期】全科類（理Ⅲ除く）…基礎科目・発展科目から2

「物理基礎」、「物理」 「化学基礎」、「化学」 「生物基礎」、「生物」 「地学基礎」、「地学」	基礎・発展8科目から2科目を選択解答
--	--------------------

※同一名称の基礎科目と発展科目の組み合わせは不可。

（例えば「物理基礎」と「物理」の2科目は不可）

※3科目を受験した場合は「基礎2科目」で判定。

（センター試験の実施上、3科目は「基礎2科目、発展1科目」パターンのみ）

※基礎・発展科目間の得点の換算については、大学入試センターの配点決定後に公表。

後期は「選択方法 A・D」の融合型となった。理Ⅲを除く文科・理科各類型の一括募集となるため、前期の文科（選択方法 A）・理科（同 D）各類型の志願者が、後期も出願できるようにするには、この融合型をとらざるを得ない。

実際、東京大後期は、前期のリベンジ組が非常に多い。つまり、「基礎2科目」（履修上は計4単位）の文科各類型志願者と、「発展2科目」（履修上は計8単位）の理科各類型志願者が、同じ土俵で競うこととなる。東京大によれば、履修上のこの4単位の差は、「文科各類型志願者にとって有利になるものではない」という。

24年入試の後期では、センター試験は第1段階選抜にのみ利用されていて、最終的な合否は原則、個別試験の得点で決まる。27年入試でも同様であれば（「予告」には記載なし）、最終的な合否判定には影響しないものの、第1段階選抜には影響しよう。

## 2. 個別試験 <理科>

※個別試験で理科が課されるのは、前期の理科各類のみ。

○【前期】理科各類…「基礎・発展」4科目から2

「物理基礎・物理」 「化学基礎・化学」 「生物基礎・生物」 「地学基礎・地学」	「基礎・発展」4科目から2科目を選択解答
--	----------------------

※各科目、全範囲から出題。

※2科目はあらかじめ出願の際に届出。

理科各類の前期は、センター試験で発展2科目となるが、個別試験でも基礎科目を含めた2領域の選択解答となった。

現行課程のセンター試験では、理科はI科目（物理Iなど）のみで、各大学の理系学部は個別試験でII科目（物理IIなど）まで出題することにより、一種の“棲み分け”がなされている。しかし新課程センター試験では、発展科目も出題科目となるため、各大学は個別試験でどのように差別化を図るのが注目の的となる。

加えて現行課程のII科目は、項目を選択して履修するのに対し、新課程の発展科目は全項目必修となるため、ますますセンター試験と個別試験の境界線が不明瞭となる。この点については、東京大に限らず各大学が、まずは発表が予測される新課程センター試験の試作問題を待つことになる。

大学によっては、例えば「個別試験の理科は、センター試験で選択しなかった科目を1科目含むこと」など、指定してくることも想定される。今回の東京大の「予告」には、そのような記述は見当たらず、センター試験と個別試験で同じ2領域が選択可能と解釈できる。しかし今後、センター試験の設問（選択解答か、全問必答かなど）や出題レベル等がより具体化していく過程で、こうした指定が加わってくることも考えられる。

## 3. センター試験・個別試験 <数学>

数学は新学習指導要領では、履修科目として現行課程の「数学C」がなくなる。そのため、【前期】理科各類と、【後期】全科類（理Ⅲ除く）の個別試験から、出題科目名として「数学C」がはずれる。

○センター試験【前期】文科・理科各類 / 【後期】全科類（理Ⅲ除く）

…「数学Ⅰ・数学A」（必須）、「数学Ⅱ・数学B」「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」から1科目

※「工業数理基礎」「簿記・会計」「情報関係基礎」はこれらの科目を履修した者および専修学校高等課程の修了（見込み）者に限る。

※24年と変更なし。

○個別試験【前期】文科各類型…数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B

※24年と変更なし。

○個別試験【前期】理科各類型…数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B

※24年と比べ、「数学C」が出題科目名から削除。

○個別試験【後期】全科類(理Ⅲ除く)…総合科目Ⅰ・総合科目Ⅱ・総合科目Ⅲ

※24年と比べ、「総合科目Ⅱ」で問われる知識の内容から、出題科目名としての「数学C」が削除。



東京大が先陣を切って発表した27年入試科目は、今後各大学にも大きく影響するとみられる。しかし具体的な入試科目を見ると、カッコ書きの科目表記をはじめ、科目選択の注釈の多さと難解さが感じられる。本資料での記述は東京大発表の資料を基に、当方で受験生にわかりやすく表現したものだ。

<参考> 東京大「予告」原文（一部抜粋）

教科	科目	科目選択の方法
理科	「物理基礎」(「物理」) 「化学基礎」(「化学」) 「生物基礎」(「生物」) 「地学基礎」(「地学」)	左の基礎を付した4科目のうちから2科目を選択 ただし、基礎を付した2科目を選択せずに「基礎を付していない科目」を選択した場合には、「同一名称科目を含む基礎を付した科目」を選択していない場合限り、「基礎を付した科目」を選択したものとみなす。(注)

この表のあとに注釈が7つ続く。以下はそのうちの1つを抜粋。

(注)3 (2) 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目の中から1科目と、物理、化学、生物、地学の4科目の中から1科目を選択した場合には、基礎を付していない1科目を、基礎を付した科目とみなす。ただし、同一名称科目を含む基礎を付した科目を選択した場合には、基礎を付した科目とみなさない。

これらを解釈し、まとめたものが本資料の「①【前期】文科各類型」(P.2)となる。

東京大は前期の文科・理科各類型、後期で入試科目がまとまっているため、上記のような記述は「まだわかりやすい」といえる。これが現状の他大学のように、学部・学科ごとに入試科目が分かれた場合、それらを理解するだけでも大変な“読解力”を要するだろう。

また、27年のセンター試験は、まだ大学入試センターから実施方法が明らかにされておらず、特に出題科目が細分化する理科の試験がどのように実施されるのかが現状不明だ。

来年の24年入試では、センター試験で「第1解答科目」が出現したことにより、各大学の募集要項で注釈が急増した。この「第1解答科目」が27年も引き継がれていくとすれば、そして、上記の入試科目の記述にさらにその注釈が加わっていくとすれば、受験生や高校の進路指導現場は、細心の注意をもって入試科目を読み取らなければならない。

なお、各国立大に対しては、国大協から本年度中(24年3月中)に入試教科・科目を公表するよう、要請が出されている。